【令和元年度】第７期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

介護保険事業（支援）計画に記載した「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価結果報告

第７期介護保険事業計画に記載の内容				R元年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	現状として、特定健診の平成29年度受診率は35.0%であった。未受診者の人も多く、訪問やハガキ等で受診勧奨を行っている。また、重症化予防の取組みについては、対象者に訪問等を通じて適切な受診勧奨、保健指導を行い、生活習慣病の予防・悪化防止を行っている。 課題としては、特定健診の受診率が低いため、生活習慣病予防のためにもより多くの人に特定健診を受診してもらうよう今後も積極的に受診勧奨を行っていく必要がある。また、健康教育等を通して住民の健康に関する意識を高めていき、将来の介護予防にもつなげる。	健康教育の実施 生活習慣の改善を図るとともに、疾病の早期発見・早期治療につなげるため、特定健診や各種がん検診を実施するとともに、受診勧奨に努める。	特定健診受診率 平成30年度　40.0% 平成31年度　45.0% 平成32年度　50.0% （平成29年度実績　35.0%）	より多くの人に特定健診・がん検診を受けてもらうため未受診者に対し訪問や電話、ハガキで受診勧奨を実施。 健診結果については、来所や訪問で直接会って内容を説明することにより、自身の健康状態を理解し生活習慣を振り返ってもらうことで、健康への意識を高めるように努めた。 特定健診受診率　令和元年度　36.6%	△	当初の計画通りに受診率は伸びていない。受診勧奨を行ったが、治療（通院）している人も多く、結果的に健診を受診しない人が多かった。健診を受けた人については、ほとんどの人が保健指導・栄養指導を行い、必要時において医療機関へつなげることができているが、医療機関につながっていない人がいるため、今後も継続して訪問、電話、ハガキ等で健診の受診勧奨を行う。また、併せて保健指導・栄養指導を行い、生活習慣病の重症化予防を図りながら、健康についての意識を高めていくことで将来の介護予防にもつなげていく必要がある。
①自立支援・介護予防・重度化防止	老人クラブの数自体が減っていることから、実施回数と参加者数ともに減少しており、達成不可能な値であるため、目標設定の値を見直した。 1食量の食事を完食できていない人も多く、フレイル予防についての講話も取り入れていく必要がある。	「元気で長生き料理教室」 健康寿命を目指すために必要な食生活について学習を行う。 学習会では栄養士とパセリの会の会員で分担し、食に関する講話を行い、1食の目安量を確認してもらうため、栄養価を計算した弁当を提供する。	料理教室　実施回数 平成30年度　12回　180人 平成31年度　12回　180人 平成32年度　12回　180人 （平成29年度実績　15回　205人）	「元気で長生き教室」 1食の目安量（適量・敵塩）を確認してもらうように栄養価を計算した弁当を提供。 料理教室　実施回数　令和元年度　11回　133人	△	元気で長生き教室において、「全体量が多い」と完食できない人や、「味が薄い」と答える人もまだ多く、食生活を見直す機会として、今後も継続して適量・適塩を試食により確認してもらう必要がある。
①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において65歳以上の人口は15年間で１千万人以上増えた一方、全国の老人クラブの会員数は減少の一途をたどっています。清水町においてもそれは同様で、平成27年度に13クラブ535人の会員がいましたが、30年度には12クラブ426人となっており深刻な課題となっています。 老人クラブは地域を基盤とする高年齢者の自主的組織であり、活動内容は幅広く、日常の健康管理やボランティア等の社会奉仕活動、趣味やサークル活動の学習活動を展開していますが会員が増えないことによる高齢化、活動の停滞が進み、新しい活動に積極的に取り組めない現状があります。	老人クラブへの加入促進 個々の会員が生きがいを持って活動することができるよう、老人クラブへの加入促進を図ります。単位クラブの領域を超える高齢者の健康づくりとボランティア活動等の各種活動を支援するため、老人クラブ連合会へ補助金を交付します。	単位クラブ数　会員数 平成30年度　13団体　450人 平成31年度　13団体　450人 平成32年度　13団体　450人 （平成29年度実績　12団体　448人）	令和2年3月31日現在の会員数～396人 地域福祉活動（健康体操、食生活改善指導、ふまねっと講習　等）～12クラブ 社会奉仕活動（地域の清掃や花壇整備～随時、施設へのタオル寄贈～338枚）	△	（課題） 活動内容は幅広く多岐にわたっているが、新しい活動に取り組めずマンネリ化している現状がある。 （対応策） 活動は様々行っているので、町民や高齢者が興味を持てる活動を掲載した広報物の発行を続け、町民に広く活動をＰＲしていく必要があると考える。

第７期介護保険事業計画に記載の内容				R元年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	国内において少子高齢化が急速に進む中、清水町においても総人口が減少し高齢化が確実に進んでいます。このような中で、健康で働く意欲のある高齢者に活躍の場を提供するシルバー人材センターは、高齢者の知識、経験、技能をいかした就業の場を確保、提供することにより、高年齢者の社会参加、生きがいや健康増進に寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献しています。 しかし、高年齢者が増加しているにもかかわらず、同センターの会員数は減少傾向が見受けられ、新規会員者の増強が喫緊の課題となっています。	シルバー人材センターの活動支援 清水町シルバー人材センターを通じて高齢者が働く機会と個人の経験や知識を生かす場を提供することにより、高齢者の生きがいづくりを支援します。介護福祉に関わる作業についても携わることができるような体制づくりに努めます。また、会員相互の交流を図るための機会を創出します。	シルバー人材センター　会員数 平成30年度 男性95人 女性55人 合計150人 平成31年度 男性97人 女性56人 合計153人 平成32年度 男性100人 女性57人 合計157人 (平成29年度実績　男性95人 女性58人 合計153人)	令和2年3月31日現在の会員数～139人 事業実績～受注件数　675件 契約金額　65,695千円 安全教室、技術講習会～年間4回実施	△	（課題） シルバー人材センターは高齢者の健康増進や生きがい創出に繋がる就業機会を提供する団体として地域に密着した事業を継続しているが、高齢者の増加にもかかわらず入会者の減少、会員の高齢化により厳しい運営状況になっている。 （対応策） 地域住民の理解と協力を求めるため、ボランティア活動を積極的に実施するとともに、高齢者の社会参加を促進していけるような多種多様な就業開拓、適切かつ円滑な就業機会を確保するなどに積極的に取り組んでいく。また、啓発活動も継続し進めていく。